



青少年消防オリンピックに日本代表が参加！

7月10日～15日 オーストリア・フィラッハ市で開催

日本消防協会

1 はじめに

日本消防協会と日本防火・防災協会は、少年消防クラブ育成支援の一環として、今年7月にオーストリア・フィラッハ市で開催された第21回青少年消防オリンピックに、4つの少年消防クラブを派遣しました。

この大会は、CTIF（ヨーロッパ各国を中心に組織する国際消防組織で日本も加盟）が2年に1回開催しているもので、今回は27か国59チーム、約600人が参加しました。日本は2009年のチェコ、2015年のポーランドに続く3回目の出場です。

2 派遣団は総勢29名

日本代表派遣団は各クラブ員5名、指導者1名の合計24名、そして日本消防協会職員5名の総勢29名で、宮城県南三陸町と東京都世田谷区の少年消防クラブが『Japan 1』、広島県府中町と福岡県北九州市の少年消防クラブが『Japan 2』として競技に参加しました。

期間中、各国の選手・関係者は専門学校を宿泊施設とし、各教室に簡易ベッドと寝袋で生活をしました。

3 2種目の競技に参加

競技は、いずれも消防の実技を取り入れた障害物競技と400メートル障害リレーの2種目です。不慣れなヨーロッパ仕様の消防資器材を使用したこともあり



(写真1) 消防障害物競技の様子



(写真2) 400メートル障害リレーの様子

ますので上位入賞には至りませんでした。選手たちの一生懸命取り組む姿勢に、会場の多くの観客から温かい拍手とエールが送られました（写真1、写真2）。

4 国際交流イベントやお国自慢大会

また、大会期間中には、様々な国際交流イベントも開催されました。

国別展示の日本ブースでは、『折り紙』の実演や『うちわ』の配布が好評で、国や世代を超えた交流を深めることができました（写真3）。

25か国が参加したお国自慢大会では、全員の心を一つに、力強いかけ声と動きで『よさこいソーラン』を披露し、観衆



(写真3) 折り紙実演の様子



(写真5) いろいろな種類のゲームを楽しみました。



(写真4) よさこいソーラン最後の決めポーズ

の心を魅了しました。その結果、3位入賞を果たしました(写真4)。

キャンプオリンピックは、消防に関係した50種類以上のレクリエーションゲームの中から順番に各チームで参加していくもので、選手たちは他国チームの様子を参考に水や泥にまみれ、楽しみながら取り組みました(写真5)。

日本代表の選手たちは、毎日の生活、競技やイベントを通じて、ヨーロッパ各国の青少年と競い合い、友情を深めることができました。

また、オリンピックを支えてくださったスタッフやフィラッハ市民の温かさにも触れることができました(写真6)。

5 おわりに

今回のオリンピックに参加したすべての者にとって大変貴重な経験となりました。特に選手たちには、この経験を今後の人生に活かし、消防・防災の担い手としても活躍してくれることを期待します。



(写真6) 1週間お世話になった宿舎管理の方たちと